

弁天町駅周辺まちづくりビジョン（素案）

1. ビジョンの目的・検討範囲

大阪市港区の東部に位置する弁天町駅周辺は、JR大阪環状線及びOsaka Metro中央線の結節点であり、国道43号と中央大通が交差する交通の要衝地となっている。また、2025年開催の大阪・関西万博やIR誘致の決定により、ベイエリア（＝ニシ）とともにそこに至る結節点として弁天町駅周辺への注目度が非常に高まっている。

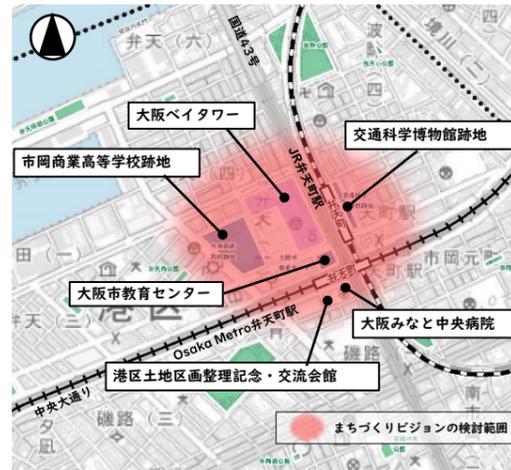


図 まちづくりビジョンの検討範囲

一方、駅に近接する大規模用地が未利用の状況が続いていることに加え、幹線道路がエリアを分断しているなどの課題がある。

このような状況のもと、弁天町駅周辺のまちづくりの推進に向けて、「弁天町駅周辺まちづくりビジョン」を策定することとする。

2. 上位計画・関連計画等の位置づけ

- 大阪のまちづくりグランドデザイン（大阪府・大阪市・堺市）において、国際観光・交流拠点の形成をめざすベイエリア（夢洲・咲洲エリア）と都心部の結節点に位置し、「**ニシの玄関口**」のポジションにある。
- 港区エリア別活性化プラン（港区）において、弁天町駅周辺のまちづくりの方向性として、「**安全安心を確保しつつ、都市機能の強化、にぎわい魅力創出**」を掲げている。



出典：大阪のまちづくりグランドデザイン（令和4年12月 大阪府・大阪市・堺市）



出典：港区エリア別活性化プラン（令和4年3月更新版）

3. まちづくりの特徴

■ 公民連携によりつくられたまち

- 江戸時代、幕府の許可を受けた町人による新田開発（町人請負新田）により海だった場所が陸地化された。
- 戦災により市内で最も大きな被害を受けた港区においては、区域の大半で戦災復興区画整理事業が実施され、地権者の協力のもと良好な都市基盤が形成された。その際、平均2mの盛土を行い高潮被害を克服するとともに、安治川の内港化により弁天埠頭が整備された。
- 平成5年にORC200（現在のOSAKA BAY TOWER）が建設され、民間活力の導入により駅周辺が開発された。

■ 港区の取組

- 港区では、公民連携協定の締結により、民間事業者と連携して弁天町駅周辺のまちづくりに取り組んでいる
- 例：小中学生のアイデアを形にする事業や町工場とベンチャー企業をつなぐ取組
コスプレ文化を通じた港区の魅力発信 など

4. 現状分析

強み

- JR大阪環状線とOsaka Metro中央線の結節点となっており、平日で約5万人が駅を利用するなど**交通の要衝地**。
- 大阪ベイタワーや港区土地区画整理記念・交流会館（R6.4開業予定）などの**都市機能が駅と直結**。
- 市岡商業高校跡地をはじめ、まちづくりに活用可能な**広大な未利用地が駅に近接**。
- 国際観光・交流拠点の形成をめざす夢洲・咲洲エリアの開発（万博・IR）により、**国内外から来街者の増加が期待**。
- 外国人人口の増加率が市平均を上回っており、今後のベイエリアでの開発推進により**さらなる増加が見込まれる**。

弱み

- 【人口】 ・ 区全体は人口減少するなか、弁天町駅周辺に人口が集中し、人口分布に偏りがある。
・ 高齢化率は市平均より高く、少子高齢化が進行している。
- 【防災】 ・ 南海トラフ巨大地震による津波により、0.5m～3.0mの浸水が想定されている。
- 【歩行者ネットワーク】 ・ 鉄道や高速道路が複雑に立体交差し、国道43号や中央大通の幹線道路が地域を分断している。
- 【地域活性化】 ・ 一日当たり約5万人が駅を利用しているものの、乗り換えが多数を占め、単なる通過地となっている。

5. 弁天町駅周辺まちづくりコンセプト

現状分析や特徴から導かれる取組の方向性

- 国際観光・交流拠点の形成をめざすニシの玄関口にふさわしい、質の高い都市空間の形成
- 駅から降りて立ち寄ってもらえる仕掛けや、区全体への人口増加へ資する弁天町駅周辺にとどまらない地域に波及効果のあるにぎわい拠点の形成

- 戦災や高潮被害を克服し、安全安心のまちづくりを進めてきた経験を踏まえたさらなる防災機能の強化
- 幹線道路によるまちの分断を解消し、駅周辺が一体となった回遊性向上の推進

- 今後の外国人人口の増加を見据えた多文化共生の環境づくり
- これからのまちづくりの担い手になる若年層や子育て層が魅力を感じる環境づくり
- 新田開発や土地区画整理事業など、民と公が手を取り合いまちを作ってきた公民連携のまちづくりの継承

めざすまちの姿

ニシの玄関口にふさわしく地域にも波及効果のある「**にぎわい拠点づくり**」

港区の拠点となるまちとして「**安全安心の充実**」

公民連携による多文化交流に向け「**人・文化・産業の掘り起こし**」

■ コンセプト

にぎわい拠点づくり

ニシの玄関口にふさわしく、地域への波及効果にもつながる「にぎわい」で、来街者にも地域にもひらかれたまち

- ⇒ 国際拠点ベイエリアとの連携
来街者と地域をつなぐ交流機能の強化

安全安心の充実

過去の経験、防災体験を活かし、安全安心に港区民が暮らすための拠点である都心機能の充実が図られるまち

- ⇒ 歩行者動線の改善・強化
防災能力の向上

“ニシ”の玄関口 「弁天町」

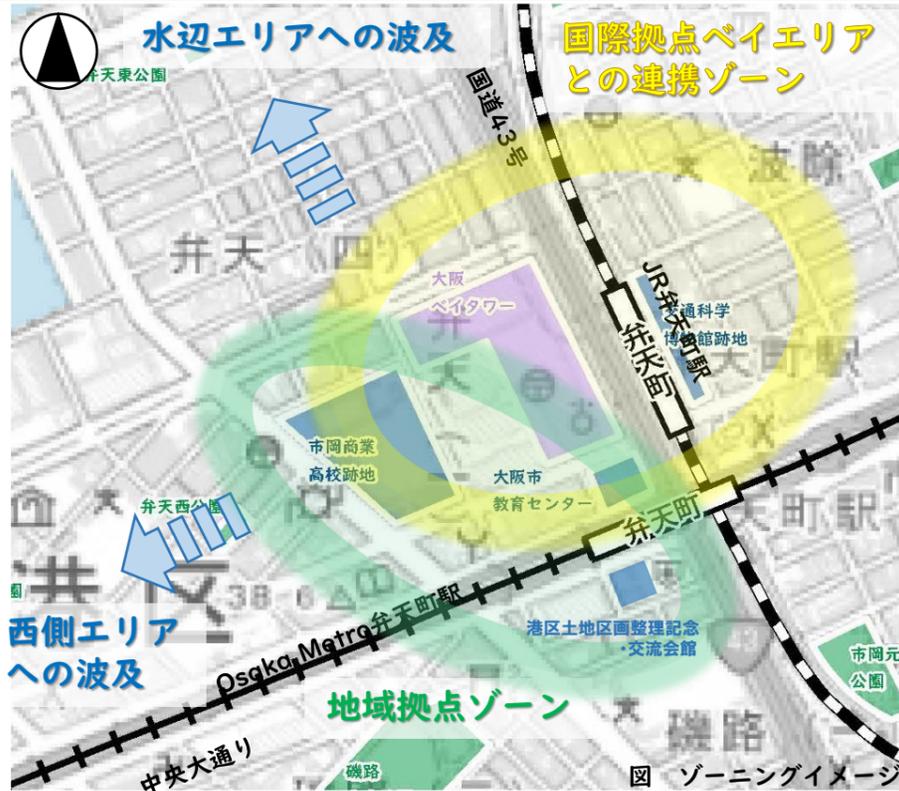
人・文化・産業の掘り起こし

港を通して培った多様な技術・多様な交流を高めるような弁天町の文化を見つけ育てるまち

- ⇒ まちづくりを支える人の発掘・連携
文化・産業の発展

6. まちづくりの基本的な考え方

(1) ゾーニング



国際拠点ベイエリアとの連携ゾーン

- 国際拠点となるベイエリアと連携し、ニシの玄関口にふさわしいにぎわいの強化となる、宿泊や商業などの充実を図る。

地域拠点ゾーン

- 周辺地域への波及効果につながるにぎわいの強化となる商業や、来街者と地域をつなぐ交流機能などの充実を図る。
- 多世代交流の拠点となる港区土地区画整理記念・交流会館の整備

(2) 回遊性の向上



歩行者の回遊性向上

- 上空、地上、地下レベルでの動線確保を図るとともに、駅周辺地域の回遊性を高めるためスマートモビリティの活用を目指す。

7. 取組イメージ

(1) にぎわい拠点づくり

国際拠点ベイエリアとの連携

- 国内外から訪れる人々が魅力を感じ、ニシの玄関口にふさわしい質の高い空間形成によるにぎわいの強化に資する未利用地の活用
- 国外から訪れる人々や居住する外国人が集いにぎわう多文化共生拠点の形成
- 多様な人々が楽しみ触れ合える駅周辺の既存飲食店等の活性化

来街者と地域をつなぐ交流機能の強化

- 地域住民や来街者が憩いくつろげる地域の価値の向上にも貢献するオープンスペースの充実
- 港区土地区画整理記念・交流会館を核とした多世代交流拠点づくり



参考：大阪ベイタワー2階アトリウム広場



参考：港区土地区画整理記念・交流会館パース図

(2) 安全安心の充実

歩行者動線の改善・強化

- 国道43号地下道のエレベーター整備、JR弁天町駅と大阪ベイタワーとの連携性の確保
- オンデマンドバスなどスマートモビリティを活用した地域内・周辺地域への回遊性向上

防災能力の向上

- 地域住民だけでなく来街者も含めた防災能力向上に向けた津波避難機能や備蓄機能などの更なる充実（未利用地の活用、民間協力の呼びかけ等）



参考：大阪メトロオンデマンドバス
<https://maas.osakametro.co.jp/odb/about/>

(3) 人・文化・産業の掘り起こし

まちづくりを支える人の発掘・連携

- オープンスペースを活用し、地域のキーマンの発掘を目指した社会実験の実施
- 持続的なまちづくりに向け、外国人を含む地域住民・行政に加えて、駅周辺の民間事業者が相互に連携し、小さな試行と対話を繰り返し、共同体意識を醸成

文化・産業の発展

- ものづくり企業とベンチャー企業との連携により、古くからある町工場の技術を活かした産業の創出と次世代育成を支援
- 区と民間企業との連携協定を活用し、若者層や外国人との交流にも寄与するコスプレイベントを実施するなど、新たな文化を発信
- 弁天町（港町）の特徴（古くからある‘モノづくり’と新しい文化の共創）を活かし、既存都市ストックを活用したまちづくりの実践



参考：ものづくり企業とベンチャー企業との連携事例（提供：Garage Minato）



参考：新たな文化の発信事例（提供：株式会社ハコスタ）

8. まちづくりロードマップ

想定スケジュール	短期(万博まで)	中期(IR開業まで)	長期(IR開業後)
年表	●交流会館の開館 ●港区制100周年 ●大阪・関西万博開催		●IR開業 ●現状の多くの建物が更新時期 ●なほ筋線開業予定 ●安治川水門建替
1. にぎわい拠点づくり	国際拠点となるベイエリアとの連携		
	ニシの玄関口にふさわしい質の高い空間形成によるにぎわいの強化に資する未利用地の活用 国外から訪れる人々や居住する外国人が集いにぎわう多文化共生拠点の形成 多様な人々が楽しみ触れ合える駅周辺の既存商業店舗の活性化		
2. 安全安心の充実	来街者と地域をつなぐ交流機能の強化		
	地域住民や来街者が憩いくつろげる地域の価値の向上にも貢献するオープンスペースの充実 港区土地区画整理記念・交流会館を核とした多世代交流拠点づくり		
3. 人・文化・産業の掘り起こし	歩行者動線の改善・強化		
	国道43号地下道のエレベーター整備 JR弁天町駅と大阪ベイタワーとの連携性の確保 オンデマンドバスなどスマートモビリティを活用した地域内・周辺地域への回遊性向上		
3. 人・文化・産業の掘り起こし	防災能力の向上		
	津波避難機能や備蓄機能などの更なる充実(未利用地の活用、民間協力の呼びかけ等)		
3. 人・文化・産業の掘り起こし	まちづくりを支える人の発掘・連携		
	オープンスペースを活用し、地域のキーマンの発掘を目指した社会実験の実施 駅周辺の民間事業者が相互に連携し、小さな試行と対話を繰り返し、共同体意識を醸成		
3. 人・文化・産業の掘り起こし	文化・産業の発展		
	ものづくり企業とベンチャー企業との連携により、古くからある町工場の技術を活かした産業の創出と次世代育成を支援 連携協定を活用した若者層や外国人との交流にも寄与するコスプレイベントを実施するなど、新たな文化を発信 弁天町(港町)の特徴(古くからある‘モノづくり’と新しい文化の共創)を活かし、既存都市ストックを活用したまちづくりの実践		

※本ビジョンの実現にあたっては、都市計画手法の手続きが必要になる可能性がある。